

目 次

1	病院の沿革	1
2	病院全体の組織図	7
3	病院の許可指定等の一覧	8
4	職員の状況 (1) 職種別職員数	11
	(2) 診療科別医師・歯科医師数	11
5	施設の概要 (1) 建物の概要	12
	(2) 設備の概要	13
6	病院平面図	15
7	病院総合情報システムの概要	20
8	主要医療機器	22
9	業務概要 (1) 許可病床数	24
	(2) 病棟別病床数	24
	(3) 入院患者延数・病床利用状況	24
	(4) 診療科別延入院患者数	25
	(5) 診療科別平均在院日数	25
	(6) 外来患者延数・1日平均患者数	26
	(7) 診療科別延外来患者数	26
	(8) 月別入院患者数	27
	(9) 月別外来患者数	28
	(10) 手術室稼働件数	29
	(11) 検査件数	29
	(12) 放射線撮影件数	30
	(13) 救急患者数	31
	(14) 薬剤処方調剤数	32
	(15) 給食数	32
	(16) 栄養管理の状況	32
	(17) 栄養指導の状況	32
	(18) 医療福祉相談・看護相談の状況	34
	(19) 訪問看護・退院調整の状況	36
	(20) 病診連携の状況	37
	(21) 健康診断件数	39
	(22) 予防接種件数	39
	(23) 人工透析件数	39
	(24) 内視鏡室検査・治療件数	40
	(25) 分娩件数	41
	(26) 死亡者数及び剖検数	41
	(27) リハビリテーション実施状況	41
10	富士市病院事業会計決算報告	43
11	経営状況	44
12	損益計算書	45
13	費用構成表	46
14	経営分析表	47
15	診療報酬請求額推移	49
16	院内各部署の業務実績	50
17	院内各種委員会等の活動実績	142
18	学術業績	209
19	病歴統計	231

1 病院の沿革

富士市立中央病院は、昭和24年、日本医療団富士地方病院を買収し、町立富士中央病院として診療科目5科（内科、外科、産婦人科、小児科、眼科）、使用許可病床数99床（一般53床、結核46床）で富士市本市場441番地の1に設立されました。

その後、翌25年には耳鼻咽喉科を、昭和30年には皮膚科を新設、さらに昭和37年には気管食道科、放射線科の2科を新設し、計9科となるとともに、医療法による「総合病院」として認可されました。

さらに、昭和39年から当地区最初の子宮がん集団検診を開始し、昭和42年には成人病検診車による胃がん検診を開始しました。

昭和50年代に入ると医療技術の進歩に伴い、昭和51年に脳神経外科、52年に人工透析室の開設のほかコンピューターX線断層撮影装置等の最新鋭医療機器を導入し、設備の充実を図ってきました。

一方、この間、病棟の増改築を重ね、昭和54年には整形外科を新設し、診療科目11科、使用許可病床数346床（一般306床、伝染40床）を数えるまでになりました。

しかし、病棟の分散的配置による医療効率の低下、病床数の絶対的不足、地震等の災害における安全性の懸念等から、昭和54年9月増改築基本構想案を作成し、昭和56年5月病院の全面移転新築を決定し、昭和57年10月起工。昭和59年6月に完成し、診療科目18科、使用許可病床数520床（一般488床、結核12床、伝染20床）の規模で同年8月28日から開設しました。また、同時に市内唯一の24時間2次救急の受け入れを開始しました。

その後、昭和61年8月に精神神経科を新設し、診療科目19科となり、平成3年には臨床研修指定病院の指定を受けました。

一方、昭和63年7月には静岡県地域医療計画に基づき増床（一般92床）の許可を受け、平成2年10月別館建設に着手、平成3年11月に完成し、引き続き同年12月に本館改修に着手、平成5年2月の完成に伴い結核病床を12床から10床に変更し、平成6年4月に使用許可病床数610床（一般580床、結核10床、伝染20床）となりました。

さらに、平成5年4月には内科より循環器内科を分離し、心臓血管外科医3名を加えて、計7名による循環器科として診療を開始し、平成9年2月には心臓血管外科を新設し、診療科目20科となりました。

平成11年4月から第二種感染症指定医療機関の指定を受け、従来の伝染20床から感染症6床に切り替わり、使用許可病床数は596床となりました。その後、感染症病棟の有効利用を目的に改修を行い、平成15年3月、一般病床の個室の増設などを行いました。

平成15年度には4月から神経内科の常設、5月には歯科口腔外科を新設し、診療科目22科となりました。

平成16年度に、従来あった2台のCT装置を32スライスMDCT装置に、また県内3台目となるCT付きガンマカメラを導入しました。

平成18年12月には、医師不足等による入院患者数の減少が続いていたことから、3C病棟（56床）、本館7B病棟（55床）を休止し、平成19年の9月には本館7B病棟（55床）を再開し、別館2C病棟（56床）を休止したため、稼働病床は484床となりました。

平成21年5月には電子カルテシステムを導入しました。診療情報の電子化により診療経過が瞬時に検索でき、迅速で的確な診断に基づく診療が可能となりました。また、医療スタッフが診療情報を共有できるようになり、チーム医療の推進が図られています。

平成24年1月には、2台のCT装置のうち1台を撮影時間が短く、放射線被爆を低減できる256スライスMDCT装置に更新しました。

平成23年度から平成24年度にかけて周産期医療体制の充実と療養環境の整備を図るため、別館病棟と本館の一部の改修工事を行いました。

改修工事に備え、平成24年1月に別館2C病棟の病床（56床）を返還し、使用許可病床数は540床（一般病床524床、結核10床、感染6床）となりました。別館2C病棟に本館2階の産婦人科外来と別館1階の通院治療室を移設拡充し、併せて外科、泌尿器科、婦人科が女性特有の疾患を診療する女性専用の外来（女性外来）を新たに設置し、平成24年11月から産婦人科外来とともに診療を開始しました。

本館4階産婦人科病棟は、産科専用病棟として新生児室を拡充し、療養環境改善のための病室の改修により6床減少し、また、小児科病棟は、新生児治療室をNICU施設基準に準拠するために、病室を改修して10床減少しました。

また、平成25年4月から消化器内科及び神経内科の医師常勤による入院診療再開に伴い、入院患者の増加に対応するため、平成18年12月から休止していた別館3C病棟を再開することとなりました。病棟再開に伴い、平成25年1月から老朽化した設備の改修や、療養環境の改善のために、6人室（2室）を4人室（2室）に改修したことにより、4床減少し、併せて各病棟の診療科配置を見直しました。一連の改修工事が完了した平成25年3月末に、使用許可病床数は520床（一般病床504床、結核10床、感染6床）となり、平成18年度からの休止病棟の解消が図られました。

平成25年6月から、薬剤師を病棟に配置し、入院患者への服薬指導や、病棟での薬剤管理を行うなど、入院診療体制の機能強化を図る必要があることから、院外処方に移行しました。

平成26年4月には病理診断科を追加し、診療科目23科となりました。

平成26年6月には高画質な撮影と放射線量の低減が可能な最新型血管撮影装置ArtisQ BA twin（ドイツ・シーメンス社製）を導入しました。同年7月には新生児特定集中治療室管理料の承認を受けました。

高度で専門的ながん診療体制の充実を図るため、平成26年7月に緩和ケア外来を新設し、がん患者サロン及び患者図書コーナーを設置しました。平成27年1月にはセカンドオピニオン外来を開始しました。

平成27年1月に、臨床研修医のより良い研修環境を確保するため臨床研修センターを設置しました。また、精神神経科の医師常勤により、平成20年から休止していた精神神経科外来を平成27年4月から再開しました。

平成27年9月には、多年にわたり地域のお産を支え、産科医療の推進に貢献してきた功績が認められ、産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞しました。

平成28年4月に、静岡県立静岡がんセンター（都道府県がん診療連携拠点病院）とのグループ指定による地域がん診療病院に指定されました。また、神経科を廃止し、新たに糖尿病・内分泌内科、血液内科、消化器内科、腎臓内科を加え、診療科目26科となりました。

平成28年5月には、被爆量を大幅に低減でき、全身撮影が可能な64列（128スライス）マルチスライスCT装置（ドイツ・シーメンス社製）を導入し、12月には、平成21年度に導入した電子カルテシステムの更新を行いました。

平成28年8月に、東京慈恵会医科大学医学生のクリニカルクラークシップ（診療参加型臨床実習）の受入れ開始にあたり、同大学との間で協定を締結しました。

平成29年8月、静岡県から地域医療支援病院の承認を受けました。

平成30年4月、患者サポートと地域医療連携の2つの機能を持つ、地域医療連携センターを設置しました。

令和2年8月、静岡県から新型コロナウイルス感染症患者を集中的に受け入れる「重点医療機関」に指定されました。

令和3年2月、多様化・複雑化する医療に対応するため、放射線科を放射線画像診断科と放射線治療科に分離し、診療科目27科となりました。

令和3年3月、核医学検査装置（ガンマカメラ）をNM/CT860（GE社製）に更新しました。

令和4年1月に循環器用X線透視診断装置を、3月に全身用X線CT診断装置を更新しました。

令和5年3月に、手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入しました。また、厚生労働大臣より、令和5年4月から令和9年3月までの5年間を指定期間として、地域がん診療連携拠点病院に指

定されました。

令和５年４月に、職員の資質の向上及び人材育成の充実を目的として、人材育成センターを設置するとともに、がん相談や入院前支援等の強化を図るため、地域医療連携センター内に総合相談室と入院支援室を配置しました。

令和６年４月に、リウマチ性疾患を中心とした診療を円滑に行うため、リウマチ・膠原病内科を新設し、診療科目28科となりました。また、救急外来に救急専門医を週１回配置し、救急医療の強化を図りました。

年 月	で き ご と
昭和 59 年 7 月	総合病院「富士市立中央病院」の名称使用について県知事承認を受ける。
8 月	本市場より移転し、高島町に於いて新病院を開設する。使用許可病床数 520 床、11 科から 18 科に増科し、8 病棟 405 床について 3 基準（寝具、給食、看護）の承認を受ける。
60 年 3 月	人工透析室を増床拡大、CT 導入、また、（財）放射線安全技術センターによる施設検査に合格する。 糖尿病教室が発足する。
60 年 5 月	12 病棟 496 床について 3 基準（寝具、給食、看護）の承認を受ける。
6 月	運動療法施設基準を受ける、また、ICU・CCU 開設する。
8 月	科学技術庁より国際規制物資使用許可を受ける。
10 月	科学技術庁より核燃料物質計量管理規定認可を受ける。
61 年 2 月	母親学級が発足する。
61 年 2 月	特定集中治療室管理承認を受ける（4 床）。
61 年 9 月	精神神経科外来（医師 2 名）の診療を開始する。
63 年 5 月	第 2 駐車場（52 台）稼動する。
7 月	4 A 病棟が特 3 類基準看護の承認（県下第 1 号）を受ける。
平成 元年 2 月	きさらぎ会（低肺機能障害患者会）が発足する。
元年 4 月	磁気共鳴断層撮影装置（MRI）を導入する。
3 年 4 月	厚生省より臨床研修指定病院の指定を受ける。
9 月	救急医療功労賞（県知事表彰）を受賞する。
12 月	別館（RC 3 階）完成により 2 C 病棟（56 床）の使用許可を受け、使用許可病床数 536 床となる。1 階にリハビリ部門を移転拡大整備し、地域保健科・病診連携室（現 医事課 地域連携室）を新設する。 本館に内視鏡室・超音波診断室を整備する。
4 年 6 月	3 B 病棟、救急観察病室、結核病棟改修により、使用許可病床数 554 床となる。
11 月	4 月に作業療法士 1 名を採用し、作業療法施設基準の承認を受ける。 特 3 類基準看護の承認が 3 病棟 134 床に拡大する。 旧 3 A 病棟に ICU・CCU、手術室を拡大整備する。
5 年 4 月	循環器科（内科系医師 4 名、心臓血管外科医師 3 名）の診療を開始する。
6 月	自治大臣表彰を受賞する。
10 月	第 2、4 土曜日を外来休診日とする。 特 3 類基準看護の承認が 11 病棟 512 床に拡大する。 第 2 駐車場を 92 台に増設する。
6 年 4 月	3 C 病棟（56 床）を開設し、使用許可病床数 610 床となる。
7 月	毎週土曜日を外来休診とする。 県集団給食協会優良施設として県知事表彰を受賞する。 患者家族用駐車場（55 台）を整備する。

10月	13棟578床が新看護（一般2.5：1A 結核5：1A）の承認を受ける。
11月	体外衝撃波結石破碎装置を設置する。
年 月	で き ご と
7年 8月	夜間勤務等看護加算の承認を受ける。
8年 7月	トータルオーダーリングシステムを稼働する。
11月	MRIを更新する。
9年 2月	心臓血管外科を新設し、診療科20科となる。 放射線治療装置（ライナック）を更新する。 救急医療功労賞（厚生大臣表彰）を受賞する。
平成10年 4月	患者給食業務を業者委託とする。
8月	新看護（一般2：1A 結核5：1A）に更新する。
10月	病院医療機能評価機構より認定を受ける（一般病院種別B）。 優良集団給食施設として厚生大臣表彰を受賞する。
12月	第3駐車場（160台）稼働する。
11年 4月	第二種感染症指定医療機関の指定を受け（6床）、使用許可病床数596床となる。
7月	外来患者用駐車場を無人化し、24時間稼働開始する。
11月	6A病棟に無菌治療室を設置する。
12年 4月	一般病棟入院基本料1、結核病棟入院基本料1の承認を受ける。
8月	紹介患者加算4、紹介外来加算、急性期病院加算の承認を受ける。
14年 1月	第2次トータルオーダーリングシステムを稼働する。
14年 4月	6A病棟に無菌治療室を増設する。
15年 3月	感染症病棟を改修、併せて一般病床個室を設置する。
15年 4月	神経内科外来（医師2名）を常設として開始する。
5月	歯科口腔外科（歯科医師2名）を新設し、診療科22科となる。
16年 2月	MRIを増設し、2台体制となる。 病院機能評価 Ver. 4.0 の認定を受ける。
17年 2月	CT装置を32スライスMDCT装置に更新する。
3月	CT付きガンマカメラを導入する。
17年 9月	本館雑排水管改修工事を行う。（～平成18年10月末迄）
18年 4月	一般病棟入院基本料10対1入院基本料の承認を受ける。 結核病棟入院基本料10対1入院基本料の承認を受ける。
7月	小児入院医療管理料2の承認を受ける。
12月	2病棟（3C、7B）を休止し、稼働病床数485床となる。
19年 1月	ハイケアユニット入院医療管理料の承認を受ける。
3月	小児入院医療管理料1の承認を受ける。
19年 9月	7B病棟（55床）を再開し、2C病棟（56床）を休止する。 稼働病床数484床となる。
20年 7月	病院広報誌「病院だより」創刊し、市内全戸配布する。
21年 2月	病院機能評価 Ver. 5.0 の認定を受ける。
21年 5月	電子カルテシステムを導入する。
7月	診断群分類包括評価（DPC）対象病院となる。
22年 3月	6A病棟に無菌治療室を増設する。
22年 4月	診療情報管理士を採用する。
6月	一般病棟入院基本料の7対1入院基本料の承認を受ける。
23年 3月	第1回富士市立中央病院あり方懇話会を開催。平成24年2月実施。計4回。）

年 月	で き ご と
24 年 1 月	32 スライス MDCT 装置 1 台を 256 スライス MDCT 装置に更新する。 2 C 病棟を産婦人科外来ほかに改修するため 56 床を返還し、使用許可病床数 540 床となる。
24 年 11 月	別館 2 C 病棟を改修し、産婦人科外来、通院治療室及び女性専用の外来（女性外来）として再開する。
25 年 3 月	産婦人科、小児科及び別館 3 C 病棟の改修により、20 床を返還し、使用許可病床数 520 床となる。 1.5 テスラ MRI 1 台を 3.0 テスラ MRI に更新する。
平成 25 年 4 月	（一社）日本臨床衛生検査技師会及び（特非）日本臨床検査標準協議会より、精度保証施設認定の認証を受ける。
6 月	院外処方体制に移行する。
7 月	日本輸血・細胞治療学会より、日本輸血・細胞治療学会 I&A の認証を受ける。
10 月	放射線治療装置（リニアック）を更新する。
12 月	病院機能評価機能種別版評価項目 3rdG:Ver1.0 一般病院 2 の認定を受ける。
26 年 4 月	東日本大震災の被災者支援活動等に対し、厚生労働大臣から感謝状を受ける。 病理診断科を追加し、診療科目 23 科となる。
6 月	最新型血管撮影装置 ArtisQ BA twin（ドイツ・シーメンス社製）を導入する。
7 月	新生児特定集中治療室管理料の承認を受ける。 緩和ケア外来を新設し、がん患者サロン及び患者図書コーナーを設置する。
27 年 1 月	セカンドオピニオン外来を開始する。 臨床研修センターを設置する。
27 年 4 月	精神神経科外来を再開する。
9 月	産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞する。
28 年 4 月	静岡県立静岡がんセンター（都道府県がん診療連携拠点病院）とのグループ指定による地域がん診療病院に指定される。 神経科を廃止し、新たに糖尿病・内分泌内科、血液内科、消化器内科、腎臓内科を加え、診療科目 26 科となる。
5 月	64 列(128 スライス)マルチスライス CT 装置(ドイツ・シーメンス社製)を導入。
8 月	東京慈恵会医科大学とクリニカルクラークシップ協定を締結する。
12 月	電子カルテシステムを更新する。
29 年 8 月	地域医療支援病院の承認を受ける。
30 年 4 月	地域医療連携センターを設置する。
31 年 3 月	病院機能評価機能種別版評価項目 3rdG:Ver2.0 一般病院 2 の認定を受ける。
令和 2 年 8 月	新型コロナウイルス感染症の重点医療機関に指定される。
10 月	総合入院体制加算 3 の承認を受ける。
3 年 2 月	放射線画像診断科、放射線治療科を設置し、診療科目 27 科となる。
3 月	核医学検査装置（ガンマカメラ）を更新する。
3 年 4 月	診療情報管理部門を事務部から分離し、診療情報管理室を設置する。
4 年 1 月	循環器用 X 線透視診断装置を更新する。
3 月	全身用 X 線 CT 診断装置を更新する。
5 年 3 月	手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入する。
5 年 3 月	厚生労働大臣より地域がん診療連携拠点病院に指定される。
4 月	人材育成センターを設置する。 地域医療連携センター内に総合相談室と入院支援室を配置する。
10 月	病院機能評価機能種別版評価項目 3rdG:Ver3.0 一般病院 2 の認定を受ける。
6 年 4 月	リウマチ・膠原病内科を新設し、診療科 28 科となる。

富士市立中央病院歴代院長

氏 名	診 療 科	就任年月	退任年月
多々良 満寿雄	産婦人科	昭和24年10月	昭和54年 3 月
荻原 正雄	呼吸器内科	昭和54年 4 月	平成 7 年 3 月
結城 研司	脳神経外科	平成 7 年 4 月	平成18年 3 月
山田 治男	代謝一般内科	平成18年 4 月	平成22年 2 月
小野寺 昭一	泌尿器科	平成22年 7 月	平成29年 3 月
柏木 秀幸	外科	平成29年 4 月	令和 4 年 3 月
児島 章	呼吸器内科	令和 4 年 4 月	令和 7 年 3 月